

中学生「起業」を学ぶ

周防大島 資金集めから販売まで

周防大島町立東和中学校が、資金集めから商品の仕入れ、販売まで商売の流れすべてを生徒たちが計画し、実践する「起業家教育」に取り組んでいる。2年生18人が四つのグループに分かれて「仮想株式会社」を設立し、市場調査や商品の仕入れなど半年間かけて準備を進めてきた。13日に町内の道の駅「サザンセトとうわ」で開かれるイベントに出店、販売活動を行い、黒字の売り上げを目指す。

(小川紀之)



教員や保護者らに「株券」を手渡す生徒たち

13日、道の駅に出店

起業家教育は、同町出身でUターンしたコンサルティング会社経営の大野圭司さん(38)を学校に招いて講演してもらったことがきっかけとなり、総合学習の一环として5年前から始めた。「過疎の町だからこそ、自分で課題を見つけ、切り開く力を持った子どもを育てる必要がある」という狙いだ。

1学期には、町内の料理店やジャム工房などの経営者を招くなどして、商売の心得を学んだ。夏休みにはイベント会場となる道の駅の利用客が多いかなどの市場調査を実施。2学期に入ると、扱う商品を決め、説明会に向けた発表の練習や、町内の業者との仕入れ交渉を行った。

今年は、各グループが「地元海産物を使った炊き込みご飯の店」「パン店」「ク

ッキーとスイートポテトの専門店」「パティンゴルフのゲーム店」を出店。折り込みチラシなどの宣伝経費を含め、具体的な売り上げ目標を盛り込んだ収支計画も作った。

資金は、教員や保護者らが「株主」となった1株500円の出資金で賄う。10月14日に開いた「株主説明会」では、グループごとに事業計画を説明し、商品をPR。それぞれが計画を上回る約3万円の資金集めに成功した。

過去4年は売り切れが出るなど順調で、元金に配当金を上乗せして株主に返還してきた。今年は収益の4割を熊本地震の義援金に充て、残りを株主への配当に回す予定だ。

江本一歩君(14)は「予想以上に資金が集まったので、仕入れを増やして売り上げを伸ばしたい」。西村采樹さん(14)は「あとは売り方の練習を積むだけ」と意気込んでいる。